



警察官(右)の交通ルールの説明に耳を傾ける
外国人ら=大阪市港区の港区民センター

谷所長(左)からタスキを受け取る永野さん=4日、
大阪市城東区

本赤十字社
大阪赤十字会

阪府
赤十字血液センター

赤十字社
大阪赤十字会

自転車ルール教えマス

大阪市港区で外国人の住民に日本語を教えていたNPO法人「市岡国際教育協会」が、2012年度には自転車の交通ルールの指導に乗り出した。自転車に乗る外国人が多くなる一方で、交通ルールが分からず事故に遭うケースもある。危険性を防ぐと講習会を開催しており、受講した外国人から好評を得ている。

(山本圭介)

在住外国人に講座 港区の事故回避へ評判上々

同協会は、毎週金曜夜に1時間半ほどの日本語教室を開催している。指導役として、大学生から80代までのボランティア約80人が登録している。学習には毎回約40人の外国人が参加、日本語のレベルに応じてマンツーマンで指導している。

■命を乗せる

「交差点では必ず止まって、左右の安全を確認してから渡ってください」「2人乗りは絶対にやめてください」。先月27日夜、

港区民センターで、港署の警察官が資料を使いながら、自転車に乗る際の注意点を順番に説明した。参加した外国人は約40人で、中国やベトナム、インドネシアなどの出身者が集まつた。

外国人らは、衝突事故の様子を再現したDVDなども視聴。警察官は「自転車は一人一人の命を乗せている乗り物です」と事故への注意を呼び掛けた。

■受け入れて理解

同協会の札葉正隆会長は「教室の生徒たちが大部分が自転車を使

っている。事故に遭ったときに「伝えたい」と感謝。パキスタン出身の男性心配そうに話す。

同協会は昨年、近隣に遭った際にどこに電話をかければよいかを居民との摩擦を生まないよう、正しいごみの出し方を指導したこともあり、今回も事故に遭わず安全に生活してもらおうと講習会を企画した。

港区役所によると、区内の人口約8万1500人のうち、外国籍を持つ人は約2500人(3月末現在)。講習会に参加した筋原章博区長は「異なる文化

がある。高卒予定者を巡る求人情報を、今年は初めて同日開催にした。午前10時~午後4時。(藤木俊治)

大阪労働局などは7日、来春卒業予定の高校生を対象にした高専説明会を、大阪市浪速区のエディオンアリーナ大阪で開く。一定の労務管理体制が整備されている「若者応援宣言企業」を中心に112社が参加する。会場では、各社の人材担当者が企業の概要や求人内容を説明。ハローワークの職員が就職活動の個別相談に応じるほか、労働法セミナーや職業興味検査もある。

校 医 成 半 路 関 関 事 求 物 出 横 内